

【調査方法と分析】

- ・ 調査は、令和7年11月13日～12月1日までの期間に、県内各地のスギ林30箇所（定点）を観測した。（表－2）
- ・ 各スギ林では、それぞれ40本のスギの木を無作為に抽出（ただし林縁の木は避ける）の上、双眼鏡により雄花の着花状況を観察し、表－1の評価基準に基づいて1本ごとに4段階で評価した。判定の個人差を抑えるため、調査は必ず複数人で行う。

表－1 スギ雄花着花状態の評価基準

評 価	判 定 基 準	配 点
A	雄花が樹冠の全面に密についている	100
B	雄花が樹冠のほぼ全面についている	50
C	雄花が樹冠にまばらに、または樹冠の限られた部分についている	10
D	雄花が観察されない	0

- ・ 複数人で調査した合計本数（例：2人の場合は80本）を40本分に換算し、箇所ごとの合計値「スギ雄花の着花指数」（最大：100×40本＝4,000）を求める。結果は表－2のとおり。

※ 着花指数は、その林の実際の花粉生産量と強い相関があることが分かっている。

表－2 令和7年度の静岡県内のスギ雄花着花状況

地 域	調査箇所数	調査本数	A	B	C	D	雄花の着花指数
賀 茂	3	240	24%	58%	17%	1%	2,200
東 部	3	240	24%	52%	23%	1%	2,108
富 士	2	160	11%	58%	31%	0%	1,735
中 部	4	320	27%	52%	20%	1%	2,193
志太榛原	6	480	33%	43%	19%	5%	2,248
中 遠	3	240	43%	31%	21%	5%	2,427
西 部	2	160	25%	57%	16%	2%	2,200
天 竜	7	560	16%	58%	24%	2%	1,911
全 県	30	2,400	26%	51%	21%	2%	2,124

注）雄花の着花指数は、箇所（40本換算）ごとの平均値。

- ・ 調査木のうち、98%の木（A＋B＋C）で雄花を確認、そのうち、78%の木の樹冠のほぼ全面に雄花がついていた（ $((A+B)/(A+B+C))$ ）。
- ・ 直近10年間（平成27年度から令和6年度）の雄花の着花指数の平均値（1,124.0）と比較。

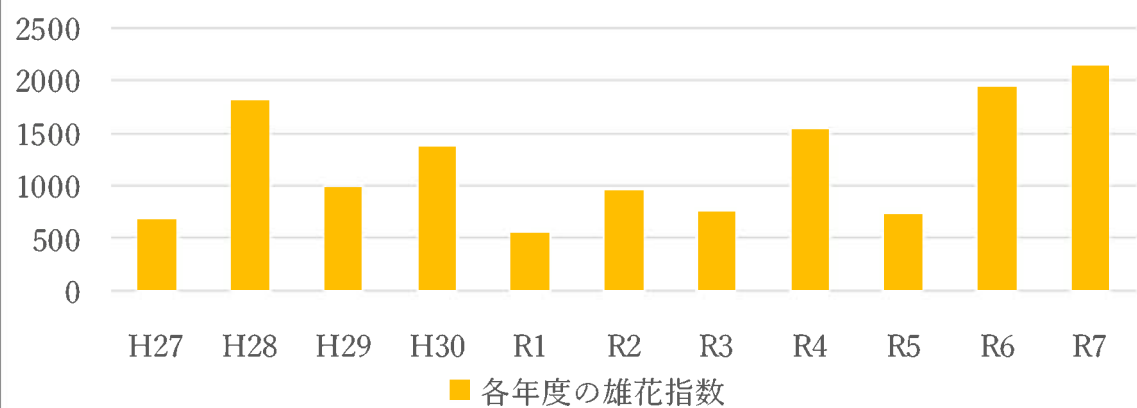
令和 8 年春のスギ花粉の発生は、雄花の着花指数が 2,123.5 であり、平均値 1,124.0 と比べて 1.9 倍である（表－3、図－1）。

- ・ 令和 6 年度（令和 7 年春）と比べると 1.1 倍となる。

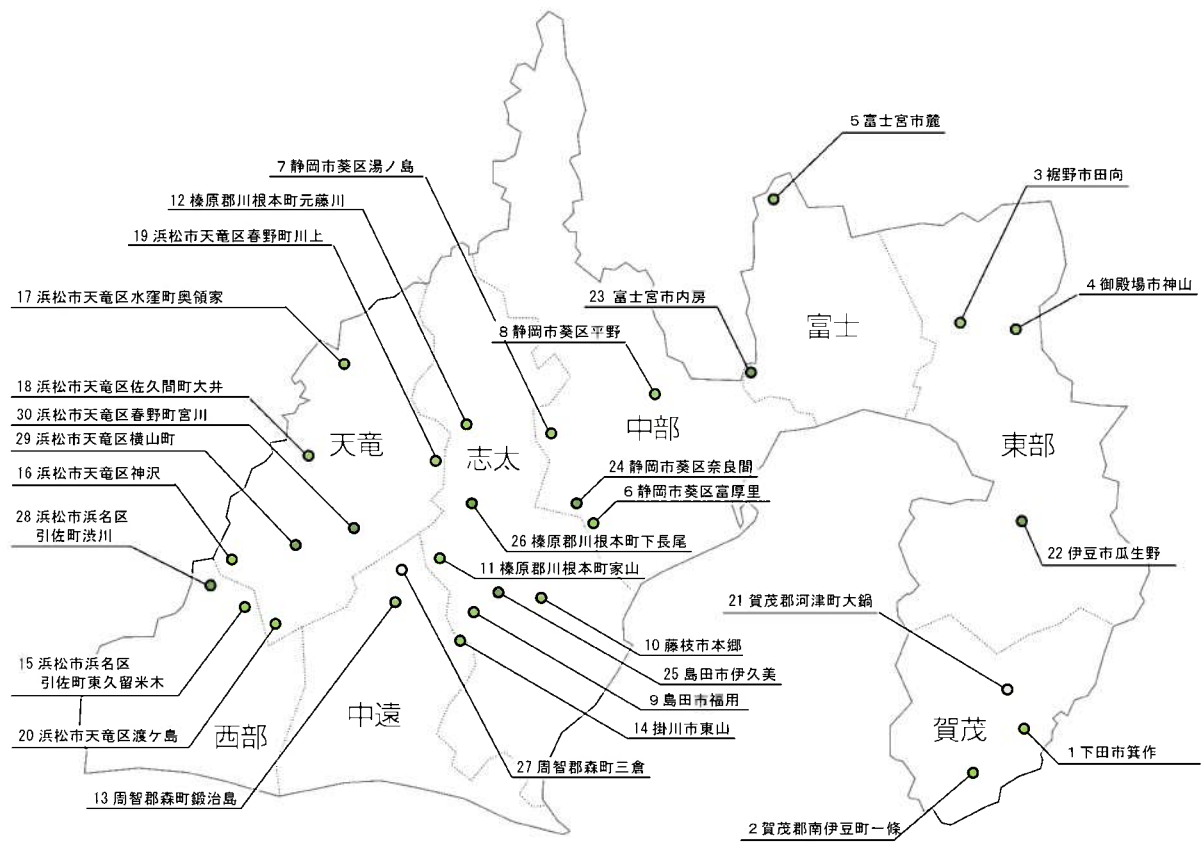
表－3 近年のスギ雄花着花指数一覧

年 度	雄花の着花指数	平 均
H27	675	1,124.0
H28	1,810	
H29	978	
H30	1,366	
R 元	542	
R 2	938	
R 3	750	
R 4	1,531	
R 5	719	
R 6	1,931	
R 7	2,124	

図－1 スギ雄花の着花指数の経年変化



(参考) 調査箇所



(参考) 箇所ごとの平年比

1	下田市箕作	2.1 倍	16	浜松市天竜区神沢	1.5 倍
2	賀茂郡南伊豆町一條	2.0 倍	17	浜松市天竜区水窪町奥領家	1.7 倍
3	裾野市田向	1.6 倍	18	浜松市天竜区佐久間町大井	1.6 倍
4	御殿場市神山	2.1 倍	19	浜松市天竜区春野町川上	1.2 倍
5	富士宮市麓	1.5 倍	20	浜松市天竜区渡ヶ島	1.9 倍
6	静岡市葵区富厚里	2.6 倍	21	賀茂郡河津町大鍋	1.8 倍
7	静岡市葵区湯ノ島	1.9 倍	22	伊豆市瓜生野	1.9 倍
8	静岡市葵区平野	1.5 倍	23	富士宮市内房	1.6 倍
9	島田市福用	2.3 倍	24	静岡市葵区奈良間	1.9 倍
10	藤枝市本郷	2.1 倍	25	島田市伊久美	1.3 倍
11	島田市川根町家山	2.2 倍	26	榛原郡川根本町下長尾	2.5 倍
12	榛原郡川根本町元藤川	1.6 倍	27	周智郡森町三倉	1.4 倍
13	周智郡森町鍛冶島	1.9 倍	28	浜松市浜名区引佐町渋川	2.1 倍
14	掛川市東山	3.2 倍	29	浜松市天竜区横山町	1.5 倍
15	浜松市浜名区引佐町東久留米木	1.8 倍	30	浜松市天竜区春野町宮川	2.6 倍